

目的 幾何学的図形は錯視現象に大きくかわるが、それは被服の図柄においては着用したとき、その「見え」やイメージに影響を与える。今回カラーシミュレーターを用いて普通体型と小柄体型における縞柄の太さと色彩の変化についてSD法及び一対比較法によるイメージ計量を行った。その結果、ある程度説明できる結果を得たので報告する。

方法 縞柄（白黒）の「太縞」と「中太縞」の「縦」、横のワンピースを制作、カラーシミュレーターで縞の色のおのおの「赤」「紫」「緑」「青」「黄」「ピンク」「茶」の色に変換し、計64種類を刺激として被服学科の女子大生126名を被験者としてSD法と一対比較による調査を体型別に行った。SD法に用いた尺度は15尺度で各々7段階とした。一対比較法は「動的」「太った」「都会的」の3つのイメージを2種類の縞柄の組合せにより色ごとに考察した。

結果 SD法によるイメージ計量の結果、縞が太いほどはっきりとなり、色については黒の「太縞」ははっきり、黄の「太縞」「中太縞」が共に明るい、茶の「太縞」は田舎的、一対比較法においては、縦縞は「動的」「都会的」、横縞は「太った」が普通及び小柄体型の共通イメージとして目立った。また普通体型は、小柄体型より「明るい」「淡手な」イメージが強く、小柄体型は縞の太さが細い方が、色は「黒」が普通体型に比べよりせせてみえた。